

第3期（平成27年度） 公益財団法人浜松市医療公社事業計画

1 目的

この法人は、浜松市及びその周辺の地域住民に対する公衆衛生の向上と地域医療連携を推進し、もって住民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

2 基本方針

公益財団法人浜松市医療公社は、浜松市から浜松医療センターの管理運営を受ける指定管理者団体として指定されており、当該指定期間である平成23年度から平成27年度までの5カ年のうち最終年度となる。この間、次に掲げる基本方針に沿って事業の適切な運営を行っているが、平成26年度の診療報酬改定では消費税増税分を除く本体では1.26%のマイナス改定となり経営を圧迫する厳しい状況となっている。平成27年度は、地域医療連携の強化と救急患者等の積極的な受け入れによる患者の確保や診療材料等の共同購入の開始などの経費削減による経営の安定化を図る。また、病床機能報告制度が開始され、2025年に向けた地域医療ビジョンの策定が図られる中、当院はこのような医療環境の変化に適切に対応していく。

- (1) 公益性と経済性の調和を図り、市民本位の利用と健全な経営に努める
- (2) 地域の中核病院として、地域から期待される役割・機能を効果的に発揮し、医療の質と安全の向上に努める
- (3) 2025年完成に向けた病床機能再編への取り組みを行う

3 事業

- (1) オープンシステムによる地域診療所等からの不特定多数の紹介患者の診療
- (2) 地域診療所等への手術設備、高度医療機器及び病床の提供
- (3) 地域医療支援病院として診療所等との連携及び機能分担の推進
- (4) 地域の救急医療の提供及び小児・周産期医療の確保
- (5) 災害拠点病院として医療救護活動の実施
- (6) 感染症指定医療機関として疾病対策の実施
- (7) 地域性を考慮した特定健診、がん診療、生活指導等の実施
- (8) 地域住民の健康増進及び疾病予防のための公衆衛生活動の実施
- (9) 医学及び医療の向上に関する調査・研究の実施
- (10) 臨床研修指定病院として臨床研修医に対する教育研修の実施
- (11) 大学の関連教育病院として学生に対する教育研修の実施
- (12) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 病院基本理念

安全・安心な、地域に信頼される病院

5 病院基本方針

- (1) 患者の権利と尊厳を尊重し、患者中心の安全・安心な医療を提供します
- (2) オープンシステムを活用し、地域医療連携ネットワークを強化します
- (3) 地域の救急・災害医療を支え、小児・周産期医療を守ります
- (4) 時代の要請に応えた高度・先進医療を推進します
- (5) 医療に関する調査・研究を推進し、国内外に情報を発信します
- (6) 職員の教育・研修に努め、国際的に通じる真の医療人を育成します
- (7) 効率的な病院経営に努め、健全な財政基盤を確立します

6 平成27年度病院目標

(診療) 地域医療連携の強化と救急患者等の積極的な受入れによる患者数の増加を図る
 (経営) 収入増加策と費用削減策を計画的に進め健全な病院運営を行う

7 当院の課題と可能性 (当院のSWOT分析)

	1. 強み (Strength) ※他医療機関よりも優れている点、 整っている分野等	2. 弱み (Weakness) ※内部で抱えている問題点等
内部環境 (病院内) 分析	<p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「血液系」「新生児系」「乳房系」「呼吸器系」「小児系」「循環器系」が高い ・循環器系疾患は、「頻脈性不整脈」が高い ・がんは、「急性白血病」「非ホジキンリンパ腫」「胆嚢・肝外胆管の悪性腫瘍」「乳がん」が高い ・筋骨格系疾患は、「股関節症」が高く、市外からの患者割合が高い <p>【現病院における指定等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター、地域周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院、エイズ治療中核拠点病院など、地域の基幹病院としての役割 <p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車搬送件数は2番目に多い ・紹介件数は2番目に多い <p>【専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で唯一、渡航前ワクチンの接種が可能 ・心臓カテーテルアブレーションは、県内トップの件数と実績 ・アレルギー学会(小児科)認定教育施設、大動脈ステントグラフト実施施設、乳房再建用インプラント、エキスパンダー実施施設に認定 ・摂食嚥下障害外来の設置 <p>【最新設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新鋭CT(256列)の導入 ・血管撮影装置の更新 <p>【健診事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史があり、固定した受診団体・地域受診者がいる ・胃透視の技術は評価が高い <p>【新病院構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新病院建設構想」を策定するなど新病院建設に関する取り組みを進めている。 	<p>【当院の運営状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は人口動態の減少に比例し新入院患者数、外来の初診患者数が減少傾向 ・紹介患者数の減少 <p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前立腺がん」のシェア率は、市内のがん拠点病院よりも低い <p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率と比較して逆紹介率が低い <p>【専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人科腫瘍専門医、婦人科内視鏡技術認定医、頭頸部がん治療専門医及び小児外科医の不在 <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内総合病院と比較して施設の老朽化が顕著 ・施設面における療養環境の低下が課題

外部環境 (病院外) 分析	3. 機会 (Opportunity) ※国の施策、他医療機関の動向など外部要因で追い風、チャンスとなるもの	4. 脅威 (Threat) ※国の施策、他医療機関の動向など外部要因で向かい風、脅威となるもの
	<p>【患者の流入・流出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の医療圏への流出がほぼなく、浜松市内で医療提供が完結 ・磐田市民病院、豊橋市民病院、浜松医大、聖隷浜松病院がエイズ診療を中止したため患者数の増加が見込まれる ・当院以外の中東遠及び西部医療圏での常勤眼科医の不足 <p>【将来推計患者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部の医療需要は、高齢化が進み2015年から25年にかけて6%増加。特に「循環器系」「呼吸器系」「筋骨格系」等の疾患の増加が予想される。 <p>【市内の主要死因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で、全体の50%以上を占める <p>【地域医療機関等の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松医療センターに公立病院としての役割を期待しており、「救急医療」「脳血管疾患医療」「がん医療」に対して強く期待 ・エイズ診療及びインフルエンザ対策において行政が期待 	<p>【日本における2025年の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年に向けて、急性期病床は高度急性期、一般急性期及び亜急性期等に区分され、それぞれ病床数も見直し(7対1病床は4割強削減) <p>【診療報酬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬の実質マイナス改定 ・DPC係数の見直しによる減額 <p>【人口動態、出生数・出生率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中区、西区、南区で人口の減少が顕著 ・出生数及び出生率は、ともに減少傾向 <p>【地域医療機関との競合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次救急の実施病院の増加や改築整備等による近隣病院の機能の強化、充実 ・聖隷浜松病院が循環器センターを開設して以降、高いシェア率を維持している ・医療機関全体像として被認知度は聖隷浜松病院、聖隷三方原病院及び浜松医科大学附属病院の方が高い ・市内に大規模な健診施設が存在している <p>【現病院における指定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部保健医療圏におけるがん診療連携拠点病院の認定施設数が、削減される可能性がある <p>【後方支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の後方支援病床として老人施設など2次施設(慢性期病床)の拡充が不透明

8 SWOT分析による整理

内部(病院内)環境分析における強みは、救命救急センター、地域周産期母子医療センターなど地域の基幹病院としての役割を果たしている点がある。また、弱みとしては、紹介率と比較して低い逆紹介率、市内のがん拠点病院よりもがんのシェア率が低いことなどがあげられる。

外部(病院外)環境分析の機会としては、市内診療所などが当院に公立病院として、「救急医療」「がん医療」などの役割を強く期待している。また、脅威としては、出生数及び出生率の減少、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題などがある。

今年度はSWOT分析をもとに、地域の医療を担う基幹病院として救急医療、災害医療、がん医療の強化・充実、病診連携の推進などを基本とした事業展開を進める。

9 事業内容

- (1) オープンシステムによる地域診療所等からの不特定多数の紹介患者の診療
- ア 定期的に開業医・診療所を訪問し、当院の特徴、新規治療の紹介、新規医師の着任紹介などを行い、当院の診療機能の広報を図り、医療連携体制の強化に努める
 - イ **充実** 紹介患者を断らない医療の実現に向けて重点的に取り組み、紹介患者に対する確実な返書管理の徹底を図る
 - エ 病棟で実施している退院支援カンファランスを活用し、院内での医療連携に関する啓発活動の推進を図る

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
開放型病院共同指導件数	1,000 件	930 件	1,000 件
紹介率※1 (初診紹介患者数/時間内の初診患者数)	72.0%以上	71.5%	69.7%
逆紹介率 (診療情報提供書/時間内の初診患者数)	58.0%以上	57.7%	58.1%

※1 平成 26 年度に変更があった地域医療支援病院承認要件に係る紹介率計算方法により算出。

- (2) 地域診療所等への手術設備、高度医療機器及び病床の提供
- ア 公立病院として地域の医療供給体制を支える医師体制の充実を図る
 - イ 不整脈カテーテルアブレーション治療及びステントグラフト治療などの高度な診断・治療を実施する
 - ウ **充実** 下肢静脈瘤の日帰り手術及び重症虚血肢に対する下腿バイパス術を実施する
 - エ **充実** 最新鋭の全身用 X 線 CT スキャナー装置及び頭部用血管造影装置の更新により、精度の高い医療を提供する
 - ク 乳がんの乳房全摘手術後のインプラントによる乳房再建術を実施する
 - オ **新規** ウイルス性肝疾患に対する新規抗ウイルス薬を含めた抗ウイルス療法を導入する
 - カ **新規** 大腸カプセル内視鏡を導入し、大腸検査症例数の拡大を図る
 - キ **充実** 前立腺がん以外の頭頸部癌や脳腫瘍などへ IMRT (強度変調放射線治療) の適応拡大を図る
 - ケ 脳神経外科及び整形外科領域に手術用ナビゲーションシステムにより安全で的確な診断・精度の高い手術を実施する

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
手術件数 (手術室)	5,500 件	5,400 件	5,270 件
腹部大動脈瘤に対するステントグラフト手術	20 件	10 件	16 件
下肢静脈瘤の日帰り手術	5 件	-	-

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実績見込	平成 25 年度 実 績
乳房全摘手術後のインプラント乳房再建術	6 件	3 件	-
大腸カプセル内視鏡	10 件	-	-
I M R T (強度変調 放射線治療) 件数	前立腺がん	15 件	15 件
	前立腺がん以外	5 件	-
手術用ナビゲーションシステムを使用した手術件数	20 件	10 件	-

(3) 地域医療支援病院として診療所等との連携及び機能分担の推進

- ア 地域医療支援病院及び公立病院としての役割を踏まえた連携と分担の推進を図る
- イ 電子カルテを用いた情報の共有化による十分な協力体制を維持する
- ウ 医療連携の視点からのセカンドオピニオン外来の運営を引き続き実施していく
- エ 地域の開業医向けの研修として診療協議会を開催し、地域医師のための生涯教育活動を推進する
- オ 診療所医師との各疾患別勉強会の開催、講演会及びセミナー講師の積極的な受託など顔の見える関係を構築する
- カ 地域における切れ目のない医療を提供するため地域連携パスの効率的運用を継続していく
- キ 地域の医療機関などと連携し、医療・介護・福祉の総合的な視点から退院調整を継続していく

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実績見込	平成 25 年度 実 績
セカンドオピニオン相談件数	18 件	16 件	14 件
診療協議会開催回数	48 回	48 回	48 回
退院調整加算算定件数	170 件	160 件	156 件

(4) 地域の救急医療の提供及び小児・周産期医療の確保

- ア 夜間救急など一次救急医療を担当する関係医療機関との連携を図り、引き続き二次救急医療及び三次救急医療の提供体制を維持する
- イ 断らない救急医療を目指し、24時間365日救急患者の受け入れを行う
- ウ **充実** 救急外来の効率的な運用を図るため、救急医療領域のクリニカルパス（一過性意識消失・脳卒中）や急性感染症（肺炎等）のクリニカルパスの開発を目指す
- エ **充実** 重症小児疾患（重症けいれん、脳症など）の救急車搬送患者などの受け入れ強化に努める。
- オ **充実** 浜松市内の分娩施設減少に伴って起こり得る分娩受け入れ制限を来すことがないように、メディカルバースセンター（めばえ）をはじめ周産期センターへの分娩受け入れを強化する。
- カ 日本内科学会認定内科救急・蘇生講習会（JMECC）の自院及び地域での開催など診療技術の向上に努める
- キ 小児アレルギー診療の充実を図るため、職員を対象とした小児アレルギー疾患勉強会や保護者及び患者を対象とした小児アレルギー教室を引き続き開催する

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
救急搬送件数	5,600 件	5,600 件	5,608 件

(5) 災害拠点病院として医療救護活動の実施

- ア 災害拠点病院として被災地への職員派遣や地域内の重症・重篤な傷病者の受け入れ、搬出など災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う
- イ 災害時に備えた医療資器材、医薬品、食料及び飲料水等の災害備蓄を確保する
- ウ 災害医療に関する職員研修及び医療救護を想定した訓練を実施する
- エ DMA T (災害派遣医療チーム)の機能維持を図るとともに訓練、研修会へ積極的に参加する
- オ **充実** 浜松地区人工透析施設災害時拠点病院として、浜松市災害時透析研究会の立ち上げ及び市内人工透析施設と災害訓練を実施する

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
災害訓練の実施回数	2 回	2 回	2 回
DMA T 訓練への参加	2 回	2 回	2 回

(6) 感染症指定医療機関として疾病対策の実施

- ア 第二種感染症指定医療機関として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、必要な患者の入院を迅速に受け入れる
- イ エイズ治療拠点病院として、エイズ患者を積極的に受け入れる。
- ウ インフルエンザワクチン及び海外渡航前の各種ワクチンの予防接種外来を継続する
- エ 院内感染サーベイランスの実施と感染率低減への活動を継続する
- オ 感染対策委員会による事例分析の検討と対策の徹底を図る
- カ 院内感染防止に関する研修会の実施による職員の教育、訓練及び啓発を図るとともに、院内感染対策マニュアルに基づいた適切な行動が出来る体制を整える
- キ J A N I S (厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業)へ引き続き参加することにより、感染防止対策加算 1 の継続算定及び国の院内感染の発生状況など概要を把握し、院内感染対策に有用な情報を医療現場へ提供する。

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
ワクチン延べ接種回数	3,500 回	3,200 回	2,285 回
院内感染研修会開催回数	8 回	8 回	8 回

※ワクチン延べ接種回数はインフルエンザ及び肺炎球菌ワクチンは除く

(7) 地域性を考慮した特定健診、がん診療、生活指導等の実施

- ア メタボリックシンドロームの予防に重点をおいた生活習慣病の予防のため特定健康診査（特定健診）・特定保健指導を実施する
- イ 子育て、介護、仕事、家事などで多忙な女性が、休日の日曜日に乳がん検診を受けられるジャパン・マンモグラフィーサンデー（10月第3日曜日）へ参加する
- ウ 地域がん診療連携拠点病院として、リニアック（放射線治療）などによる質の高い診断・治療の提供、外来化学療法室を活用したがん診療を実施する。
- エ がん治療において投与する薬剤の種類、量、期間及び手順などを時系列で示したレジメン計画書に基づいた外来化学療法の安全かつ円滑な施行に努める
- オ 西部医療圏の医療従事者を対象としたがんの早期診断、緩和ケアに関する研修会の開催及びがん患者の就労支援相談の充実など地域がん診療連携拠点病院としての機能充実を図る
- カ **充実** がん患者に対する緩和ケア専門チームの活動、がんサロンの活動や患者支援係によるがん看護相談・就労相談の充実を図る
- キ 5大がん（肺がん、乳がん、胃がん、肝がん、大腸がん）における地域連携パスを充実させることにより、症例数の拡大を図る。また、地域連携パスの範囲を広げることにより患者の受け入れ拡大を目指す
- ク **新規** 肝がんチーム医療を推進し、肝がんの内科的治療及び薬剤師・栄養士などの医療スタッフを加えた総合診療の提供を目指す
- ク **充実** 新規導入された大腸および食道の内視鏡治療（ESD）を含む消化管ESDの件数増加に努める

【関連指標】

項目		平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
特定健康診査受診者数		16,500 人	16,427 人	15,809 人
特定保健指導件数		100 件	75 件	101 件
外来化学療法実施件数		5,100 件	5,000 人	4,979 人
がんサロン開催数		12 回	8 回	-
がん患者就労相談		4 回	3 回	-
地域連携パス数	胃がん	10 件	8 件	11 件
	乳がん	50 件	45 件	48 件
	肝がん	3 件	1 件	1 件
	大腸がん	20 件	20 件	17 件
	肺がん	3 件	1 件	1 件
消化管 ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）治療件数		40 件	36 件	31 件

(8) 地域住民の健康増進及び疾病予防のための公衆衛生活動の実施

- ア 高齢化・生活習慣病の増加を踏まえ、一般健診、がん検診及び人間ドックの受け入れを実施し、疾患の予防、早期発見を推進する
- イ **充実** 健診センターと院内診療科の連携体制を強化し、乳がん検診、子宮がん検診及び内視鏡（胃カメラ）検診の受け入れを強化に努める。
- ウ **充実** オプション検査として「動脈硬化検査（ABI）」を追加するなど、付加検査を含む人間ドック及び一般健診の拡充を図る
- エ 市民公開講座など市民を対象とした講演会の開催を行うと共に、適切な医療情報を提供し、疾病予防や健康への知識の向上を図る
- オ 病院ホームページの随時更新や病院広報誌の充実により、病院の機能や診療の状況など適切な情報提供を行う

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
人間ドック受診者数	500 人	490 人	489 人
動脈硬化検査（ABI）	200 人	-	-

(9) 医学及び医療の向上に関する調査・研究の実施

- ア JALSG（造血器研究グループ）など臨床研究事業への参加・症例登録などの推進を図り、「とおとうみ臨床試験ネットワーク」への継続的な参加など治験実施件数の増加に努める
- イ 一般財団法人浜松光医学財団とのPET診断センターにおける診療及び研究の連携事業を継続して行う
- ウ 臨床研究の促進のため、治験・臨床試験に係る医師の負担軽減を図り、治験を受託しやすい環境を整え、新規治験受託件数を増加させる
- エ 病院学術誌を継続的に発行する
- オ **新規** ハプロ移植（HLA半合致移植）の実施に向けて、他施設と共同プロトコルの作成あるいは多施設共同研究に参加する

(10) 臨床研修指定病院として臨床研修医に対する教育研修の実施

- ア 臨床研修指定病院として、シミュレーションセンターの活用を更に進めるなど初期研修機能体制を強化し、臨床研修医（医師免許取得後1年次及び2年次）への適切な教育研修を実施する
- イ 医師臨床研修に係る指導医講習会を自院開催し、院内医師を多数参加させることにより指導医数の増員を図る

(11) 大学の関連教育病院として学生に対する教育研修の実施

- ア 浜松医科大学の関連教育病院として医学部学生の臨床実習を行い、看護師養成施設への講師派遣及び看護実習生の受け入れ協力を行う

(12) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

○医療の質、患者サービスの向上

- ア 安全で良質な医療を実現するため、呼吸サポートチーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、感染対策チームなどのチーム医療の活動を引き続き推進し、専門職種の積極的な活用及び多職種間の協働を図ることにより、職種間の連携緊密化を進め、患者ニーズに合った診療体制を構築する
- イ インフォームド・コンセントの充実、徹底を図り、治療方針や経過など患者及び家族に対しわかりやすい説明に努める
- ウ STASスクリーニング（緩和ケアの質評価ツール）の精度向上を図り、がんによる苦痛患者の掘り起こしと苦痛症状の緩和を促進する
- エ 身体の病気に伴って起こる様々な精神的、心理的な問題への支援を行うために、精神科担当看護師を含めた精神リエゾンチームの設置を検討する
- オ 病院機能や診療状況を統計・数値化した臨床指標（クリニカルインディケイター）を策定し、他医療機関の成績と比較することにより、診療の質の向上に役立てる
- カ 医療機器の耐用年数及び稼働状況を考慮した計画的な医療機器の更新を行う
- キ 患者満足度調査や「患者のみなさまの声」から患者ニーズをいち早く把握し、病院の利用環境などについて、柔軟かつ迅速な対応を行う
- ク 医療サービス向上委員会を中心として、外部の専門的な講師を招聘し、職員の接遇・応対に関する研修会を開催するなど、職員の接遇意識の向上に努め、また、職員接遇マニュアルの見直しを図る
- ケ 携帯電話による順番案内サービスの拡大など待ち時間の負担軽減に取り組む
- コ **新規** 患者の利便性、満足度の向上及び業務の効率化を図るため、外来診療から入院、退院支援までの流れを円滑に行う患者サポートセンターの構築を検討する
- サ **充実** 採血時の待ち時間の短縮及び検体取り違い防止など正確・迅速な採血業務を行うため、自動採血管準備システムの導入を検討する。
- シ **充実** 産褥期の栄養バランス考慮した「産褥期食」や「出産お祝い膳」の提供を検討するなど食事サービスの向上を図る

○安全な医療の推進

- ア **充実** 医療安全分化の醸成を目的として、チームSTEPPSを導入する。また、ワーキンググループによる職員の教育・研修を通し、チーム医療の推進を図る
- イ **充実** 転倒・転落防止対策の強化を図る
- ウ **新規** 医療事故調査制度の開始に向けて、院内の体制を整備する
- エ 定期的な医療安全に係る情報の収集、分析、対策の評価及び結果の検証を行うとともに、院内ラウンドを継続的に実施する
- オ 医療安全推進マニュアルを必要に応じ随時改訂する。また、現場安全管理者への教育や医療安全に関する研修会の開催など職員教育を強化し、医療安全に対する知識の向上及び実践に努める

- カ 休日における薬剤師による抗がん剤混注業務を拡大することにより、病棟で混注業務を実施している医師や看護師への抗がん剤の曝露を防ぎ、医療安全を推進する
- キ **新規** 院内での携帯電話等の使用に関するEMC（電磁障害防止）管理体制を整備する
- キ 医療機器管理システム（iMarcs）を活用し、医療機器の点検整備や研修会の計画など安全管理の徹底を図る

○人材の確保・育成と効率的な活用

- ア 職員の職務に対する意欲向上及び人材育成の推進のため、職員の実績を適正に業務評価及び職能評価できるシステムの構築を検討する
- イ 職員として働く意欲、やりがいなどに対する職員満足度調査を実施し、調査結果を分析、課題抽出及び対策を講じることにより、業務の質向上に繋げる
- ウ 専門性の向上を図るために取得した専門医、認定看護師、認定薬剤師、認定技師などの医療職職員の資格取得に対する処遇などの体制を検討する
- エ 医師の事務負担軽減のため、医師事務作業補助者（医療クラーク）の知識向上、体制の拡充を図り、代行入力業務を拡大することにより医師の確保と定着化を促進する
- オ 管理者研修、監督者研修、主任研修など階層別研修を充実させるとともに、全職員を対象としたテーマ別研修会を開催するなど職員研修を実施する

○看護師確保への対応

- ア 看護師等修学交付金制度を継続して実施する
- イ 合同就職説明会及び学校説明会への積極的な参加や各看護師養成施設への学校訪問など広報活動を継続して実施し、必要な人材を確保する
- ウ 看護師募集DVD、ポスター、リーフレットの作成など看護職員採用プロジェクトチームを継続し、新規採用者を確保する
- エ ワークライフバランスに配慮した勤務体系の導入を目指すため、二交替制勤務の導入を検討する
- オ 看護学生臨地実習受け入れ校の拡大に伴うリクルート活動の強化やインターンシップ、病院見学会、高校生1日ナース体験事業及び看護師再就業研修の開催など受け入れ事業の拡充を図る

○2025年完成に向けた病床機能再編への取り組み

- ア **新規** 病床機能報告制度の動向を見据え、急性期病院としての機能を維持していくため、病床編成の見直しを行う

○新病院建設に向けた準備

- ア **新規** 新病院建設に向けて担当部署を設置し、各部門との調整はもとより、開設者である浜松市とも、これまで以上に、緊密な連携、情報交換を行っていく。

10 事業量計画

(1) 入院

年間延べ 191,052 人を予定 (病床利用率 87.0%)

(2) 外来

年間延べ 230,850 人、1 日平均 950 人を予定 (人工透析を含む)

平成 27 年度事業量計画

年度	平成 27 年度 計画(A) 日数 366 日	平成 26 年度 実績見込(B) 日数 365 日	増 減 (A) - (B)	平成 25 年度 実 績 日数 365 日
入院・外来・健診				
1 入院				
計 (606 床)	191,052 人 522 人/日	188,326 人 516 人/日	2,726 人 6 人/日	187,148 人 513 人/日
病床利用率 (600 床)	87.0%	86.0%	1.0%	85.5%
平均在院日数	14.0 日	14.0 日	0 日	14.2 日
診療単価 (1 人 1 日当たり)	59,800 円	59,806 円	△6 円	60,352 円
診療収益	11,424,909 千円	11,263,066 千円	161,843 千円	11,294,839 千円
2 外来				
計	230,850 人 950 人/日 実日数 243 日	230,916 人 946 人/日 実日数 244 日	△66 人 4 人/日 △1 日	230,245 人 944 人/日 実日数 244 日
診療単価 (1 人 1 日当たり)	14,700 円	14,695 円	5 円	14,398 円
診療収益	3,393,495 千円	3,393,286 千円	209 千円	3,315,092 千円
3 健診				
特定健診	16,500 人/年 68 人/日 実数 243 日	16,427 人/年 67 人/日 実数 244 日	73 人/年 1 人/日 △1 日	15,809 人/年 65 人/日 実数 244 日
胃がん検診	8,550 人/年	8,535 人/年	15 人/年	8,838 人/年
大腸がん検診	11,200 人/年	11,157 人/年	43 人/年	11,371 人/年
結核肺がん検診	15,400 人/年	15,380 人/年	20 人/年	15,514 人/年
子宮がん検診	3,650 人/年	3,649 人/年	1 人/年	3,547 人/年
乳がん検診	2,450 人/年	2,450 人/年	0 人/年	2,328 人/年

1.1 経営の質向上に関する事業

(1) 収入増加策

- ア **充実** 目標値に掲げる病床利用率を達成するため、病棟構成を見直しや医療連携課に病床管理担当看護師を配置するなど効率的な病床管理運営と新入院患者の確保に努める
- イ 診療報酬改定への迅速かつ適切な対応及び新規施設基準の取得による診療単価向上への取り組みを行う
- ウ 原価計算、DPC（診療費の包括払い制度）分析システム等を活用した経営指標の分析・課題抽出を行い、収入増加策と経費削減策を策定する

(2) 費用削減策

- ア **新規** 診療材料等の共同購入の開始など材料費の削減に努める
- イ 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の導入促進を図る
- ウ 医療の質向上及び医療安全を考慮した職員の合理的な採用と配置を実施し、給与費比率の水準適正化に努める。また、退職者継続雇用制度を活用し、職員の時間外勤務時間の削減を図る
- エ 医療機器購入や設備投資の際には、購入価格及び採算性等の比較検討を行い、コスト削減を図る
- オ 購買支援コンサルティングを活用し、引き続き購買、調達にかかる費用及び委託費の削減を進める
- カ **充実** 閉鎖式輸液ラインや衛生材料（消毒薬やペーパータオル等）の見直しによる経費削減を図る

【関連指標】

項目	平成 27 年度 計 画	平成 26 年度 実 績 見 込	平成 25 年度 実 績
給与費対医業収益比率	51.2%以下	51.6%	50.6%
材料費対医業収益比率	24.9%以下	24.9%	24.6%
（薬品費対医業収益比率）	14.0%以下	14.0%	13.8%
（診療材料費対医業収益比率）	10.0%以下	10.0%	9.9%
後発医薬品使用シェア率 ※厚生労働省目標 60%以上	60.0%以上	69.5%	56.51%

※給与費は、退職給与引当金の会計基準変更時差異分を除く（H25年度決算は、賞与引当金新規計上分も除く）

※H26年度以降は、消費税（5%→8%）3%増税を含む